

■ 平成12年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

寄附行為第4条第1号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- 寄贈資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料） 3,002点
- 購入図書・雑誌 1,385点
- その他の購入特別資料 178点
- レプリカ作成・VTR、テープ、CD 5点

（別掲の統計・資料編資料編「資料収集状況」欄参照）

整理・保存 カード作成及び収蔵資料のコンピュータ入力並びに収蔵資料の寄贈・寄託目録作成等
閲覧 利用者 延べ3,432人

II 文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業

寄附行為第4条第2号に掲げる事業は、次のとおり行った。

1 展覧会事業

(1) 常設展「北海道文学の流れ」

会期 通年
会場 北海道立文学館常設展示室
入場者 8,761人

展示の構成・内容は開館当時のものを踏襲しているが、昨年度、常設展示室内に開設された特設コーナーでは「新聞連載小説の挿絵と原稿」をテーマに、当館が収蔵している1950年代の新聞連載小説の挿絵原画と自筆原稿を展示した。

以下に、展示編成の基本を掲げておく。なお、〔 〕内は監修者名を示す。

〈札幌農学校と有島武郎〉〔高山亮二〕

このコーナーでは、ウィリアム・S・クラークの事蹟によって広く知られている札幌農学校（現、北海道大学。明治9年開校）の存在と活動を紹介するとともに、その農学校に学び、のちに母校の教壇に立って多くの後進を育成し、文学者・思想家として日本近代史に刻まれる仕事を残した有島武郎について、内村鑑三、新渡戸稲造、森本厚吉、ティルダ・ヘックらとの交流を含め、通算12年間にわたる本道在任期の足跡を概観した。

〈北海道文学の流れ—明治・大正期〉〔木原直彦〕

このコーナーで取り上げた主な文学者・関連人物名、事項名は次のとおりである（以下同）。

* 「空知川の岸边」国木田独歩

国木田独歩、佐々城信子

* 開拓期を彩る作家群

岩野泡鳴、幸田露伴、長田幹彦、島崎藤村、葛西善蔵、徳富蘆花ほか

* 漂泊の人・石川啄木

石川啄木、石川節子、橘智恵子、野口雨情ほか

* 有島武郎をめぐる人々

有島武郎、有島生馬、里見淳、武者小路実篤、志賀直哉

* 道産子作家誕生

武林無想庵、岡田三郎、森田たま、中戸川吉二、中村武羅夫、子母沢寛、素木しづ、長谷川海太郎

* 同人雑誌群

「路上」「路傍人」「君影草」「白夜」「歩み」ほか

* 来道作家の足跡（大正期）

文学地図（足跡図）— 吉屋信子、宮本百合子、橋外男、宮沢賢治、宇野千代、長田幹彦、久米正雄ほか

〈北海道文学の流れ—昭和前期〉〔西村信〕

* プロレタリア文学の潮流

葉山嘉樹、小林多喜二、久保栄、小熊秀雄、島木健作、本庄陸男ほか

* 若い詩人の肖像

伊藤整、川崎昇ほか

* 来道作家の足跡（昭和前期）

芥川龍之介、里見淳、鶴田知也ほか

* 農民文学の世界

吉田十四雄、辻村もと子、板東三百、早川三代治、坂本直行ほか

* 戦時下の文学

林容一郎、中津川俊六、八木義徳、寒川光太郎ほか

〈北海道文学の流れ—昭和後期〉〔神谷忠孝〕

* 戦後文学の展開

風巻景次郎、武田泰淳、宇野親美、中沢茂、澤田誠一、木野工ほか

* さまざまな座標 I

船山馨、亀井勝一郎、八木義徳、和田芳恵、長谷川四郎、李恢成、重兼芳子、高橋揆一郎、小檜山博ほか

* 旋風をおこした作家たち

原田康子、三浦綾子、渡辺淳一

* さまざまな座標 II

荒巻義雄、藤堂志津子、佐藤泰志、川又千秋、佐々木譲、土居良一ほか

* 来道作家の足跡（昭和後期）

福永武彦、戸川幸夫、新田次郎、水上勉、開高健、大江健三郎ほか

* 活躍する作家たち

三浦清広、加藤幸子、沖藤典子、久間十義、見延典子、辻仁成、谷村志穂

〈北海道の詩〉〔永井浩〕

* 草創期

児玉花外、高村光太郎、三木露風、宮沢賢治、北原白秋

* 生成期

更科源蔵、吉田一穂、左川ちか、猪狩満直、鈴木政輝、加藤愛夫、和田徹三ほか

* 戦争と詩

百田宗治、今井鴻象、鷺巣繁男、三谷木の実、牧章造ほか

〈北海道の短歌〉〔田村哲三〕

* 北海道歌壇の動き

山下秀之助、酒井広治、小田観螢、中城ふみ子ほか

* 来道歌人

斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか

* 口語短歌

鳴海要吉、石川啄木ほか

* アイヌの歌人

バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

* 北方俳句の夜明け

松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか

* 俳句近代化への潮流

荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか

* 花ひらく北の俳句

斎藤玄、寺田京子、比良暮雪、佐々木丁冬ほか

* 俳句の現代

比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔藤本英夫〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

* 明治～昭和前期

鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか

* 昭和後期～平成7年

西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子

* 北海道の川柳社

道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

* 明治～昭和20年代

伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか

* 昭和30年代

石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか

* 昭和40年代以降

加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

(2) 特別企画展

● 「挿絵と装幀の小宇宙～竹久夢二から川上澄生まで～」

会 期 平成12年4月29日(土)～7月2日(日) (52日間)

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 3,284人

特別企画展「挿絵と装幀の小宇宙～竹久夢二から川上澄生まで～」は、文字テキストとともに「本」を構成する重要な要素である「挿絵」と「装幀」に焦点をあて、相互にかかわり合って形作られるイメージの小宇宙の姿を探った。

展示室では、「世界名作全集」(講談社)や「子どもの伝記全集」(ポプラ社)で挿絵・装幀に腕を振るった梁川剛一をはじめ、一世を風靡した竹久夢二や芹沢銈介の仕事や、三岸好太郎、川上澄生、棟方志功、松本竣介、佐藤忠良など北方にゆかりのある芸術家が手がけた挿絵・装幀作品が紹介された。また、特別装幀本(特装本)と呼ばれる豪華本の数々も展示し、工芸品としての「本」の美しさにも光を当てることができた。

● 「『北緯五十度』の詩人たち」

会 期 平成12年8月12日(土)～10月9日(月) (51日間)

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 1,246人

道東の弟子屈町を拠点に活動していた詩人・更科源蔵は、昭和5年から10年にかけて詩誌「北緯五十度」を発行し、国内の多くの詩人たちに向けて北からのメッセージを発信していた。本展では、「北緯五十度」を通じてなされた更科と各地の詩人仲間との交流を多彩な資料によって紹介した。

「北緯五十度」は発行部数が僅少で、詩史上で名は知られていてもその実態を把握することは困難であるといわれていたが、今回の展示を通じてその「素顔」に迫ることができ、併催の講演会、フォーラム等とともに好評のうちに終了した。

※企画展「版画に生きる大自然～手島圭三郎北の命を彫る～」

会 期 平成13年 1月 9日(火)～平成13年 1月28日(日) (18日間)
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 902人

本展覧会では、江別市在住の版画家手島圭三郎氏の新作絵本シリーズ「極寒に生きるいきものたち」から既刊4冊の全木版絵本原画を展示した。会場では、木版原画の他に絵本が完成するまでの努力を物語る膨大な下絵や、氏が長年にわたって描き続けてきたフィールドスケッチノートが初公開されたほか、日常の製作活動で使われる彫刻刀やバレン等、手島作品の魅力を支える「秘密」の数々が紹介され、観覧者の興味を呼んだ。また、付帯事業として、ハーブ演奏と朗読による「おおはくちょうのそら」上演、手島氏自身が作品にこめられた哲学を語った「スライド・トーク 手島圭三郎自作を語る」も実施され多くの観客で賑わった。

●企画展「花咲く北の川柳展」(26日間)

会 期 平成13年 2月10日(土)～3月11日(日)
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 685人

北海道川柳連盟の協力を得て実施された「花咲く北の川柳展」では、明治から昭和にかけて、北海道の川柳史を飾った川柳人12人をパネルと色紙、短冊などで紹介するとともに、川柳界に大きな足跡を残した柳人や現在道内各地で活躍している柳人もとりあげた。

また、有珠山噴火を詠った地元の小中学生の川柳作品や、現代の風俗を詠った川柳に漫画を添えた色紙を紹介するコーナーを設けるなど、川柳の奥の深さを再認識する展覧会となった。関連事業として、全道から川柳作品を募集したコンテストやワークショップ、川柳大会、シンポジウム、講演会などを連続して行い、いずれも盛況であった。

※企画展「Visual Poetica 2001 in 札幌」

会 期 平成13年 3月17日(土)～4月 8日(日) (12日間)
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 186人

同展実行委員会と(財)北海道文学館の共催で実施された企画展「Visual Poetica 2001 in 札幌」(ヴィジュアル・ポエトリイ=視る詩、あるいは視覚詩)では、池澤夏樹氏(小説家)のパーソナルコンピュータによる視覚詩、山口昌男氏(文化人類学者・札幌大学学長)のエッチング、村上善男氏(美術家)のミックスト・メディア、ヤリタミサコ氏(詩人)の音声機器を使用した視覚詩など、ユニークな作品が多数出品され、多くの人々の関心を集めた。

(3) ファミリー文学館

●夏休みファミリー文学館「ぼくもわたしも絵本作家」(ワークショップ)

会 期 平成12年7月25日(火)～7月29日(土) (5日間)
会 場 北海道立文学館講堂
講 師 当館事業課職員
参加者 59人

昨年に引き続き、手作り絵本のワークショップ「ぼくもわたしも絵本作家」は、参加する子どもたちが自ら主役となって世界に一つしかない自分だけの手作り絵本をつくることを目的として実施した。

小学校3, 4年生の部、5, 6年生の部とに別れ、オリエンテーションを含めそれぞれ5日間の日程でオリジナル絵本の完成をめざした。また、完成した作品は秋のファミリー文学館「〈絵本の館〉のたからもの」にあわせて展示された。

●秋のファミリー文学館「〈絵本の館〉のたからもの」(絵本原画展)

会 期 平成12年10月28日(土)～11月19日(日) (20日間)
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 2,054人

秋のファミリー文学館は「〈絵本の館〉のたからもの」と題して、剣淵町「絵本の館」が収蔵する絵本原画展を実施した。本展では、60点余りの絵本原画に加え、第10回を迎えた「けんぶち絵本大賞」や「えほん祭り」の取り組みの様子を写真パネルで紹介するとともに、特設した閲覧コーナーにおいて絵本大賞受賞全作品を紹介した。また記念講演会及び「剣淵・生命を育てる大地の会」で生産された無・減農薬野菜や知的障害者授産施設「西原学園」で作られた木工品、陶芸品の販売も行われた。

・ファミリー文学館記念講演会「絵と文・出会いの裏話」

講 師 加藤多一
日 時 平成12年10月20日(土) 午後2時
会 場 北海道立文学館講堂
聴講者 78人

(4) 「～わくわく～こどもランド」

※～わくわく～こどもランド

会 期 平成12年5月～平成13年3月（毎月第2土曜日 11回実施）
会 場 北海道立文学館講堂
参加者 821人
出 演 人形劇団「豆の木」、「おはなしなあに」ほか

「～わくわく～こどもランド」は、平成12年5月から平成13年3月まで、毎月第2土曜日を中心に11回の催しを行った。内容も、絵本読み聞かせ、パネルシアター、ボードビル、人形劇、腹話術などバラエティーに富んだものを、地域のボランティアサークル等の協力で実施でき、毎回多くの子どもたちや付き添いのご両親に楽しんでいただくことができた。

2 講演会・講座等事業

(1) 文芸講演会

- 演 題 「書物をめぐる断章」
講 師 山口昌男（札幌大学学長）
日 時 平成12年5月20日（土） 午後2時
会 場 北海道立文学館講堂
聴講者 137人
- 演 題 「昭和初期の文学状況から～更科源蔵から小笠原克へ～」
講 師 保昌正夫（立正大学教授）
日 時 平成12年9月2日（水） 午後2時
会 場 北海道立文学館講堂
聴講者 48人

(2) 文芸セミナー

- 演 題 「響き合う美術と文学～装幀の仕事・装幀の楽しさ～」
講 師 村上善男（美術家・詩人）
日 時 平成12年7月1日（土） 午後2時
会 場 北海道立文学館講堂
聴講者 51人
- 演 題 「歌人 中城ふみ子をめぐって」
講 師 吉田真弓（短歌研究家）
日 時 平成12年10月7日（土） 午後2時
会 場 北海道立文学館講堂
聴講者 89人

●演 題 「私のネット文学体験」

講 師 佐野良二（作家）

日 時 平成12年11月3日(土) 午後2時

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 14人

(4) 文芸講座等

※「高橋揆一郎・自作朗読とトークのつどい」

講 師 高橋揆一郎（作家）

日 時 平成12年8月13日(日) 午後2時

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 47人

※映画上映とトーク「第七官界彷徨～尾崎翠を探して～」

講 師 浜野佐知（映画監督）、山崎邦紀（脚本家）、山口昌男（札幌大学学長）

日 時 平成12年8月26日(土)

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 135人

※『北緯五十度』の詩篇を読む会

講 師 工藤正廣（北海道大学教授）

日 時 平成12年9月10日(日) 午後2時

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 48人

※フォーラム「現代詩と北海道～『北緯五十度』以後の詩をめぐって～」

パネリスト 永井 浩（詩人）、原子 修（詩人・札幌大学教授）、光城健悦（詩人）、
東 延江（詩人）、笠井嗣夫（詩人・評論家）、斉藤征義（詩人）、米山将治（詩人）

日 時 平成12年10月23日（土）午前10時15分

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴 講 者 92人

※スライド・トーク「極寒に生きる生きものたち～手島圭三郎・自作を語る～」

講 師 手島圭三郎（版画家・絵本作家）

日 時 平成13年1月20日(土)

会 場 北海道立文学館講堂

聴講者 135人

※冬休み版画教室

日 時 平成13年 1月10日(水)～12日(金)

講 師 瀬戸節子 (版画家)

会 場 北海道立文学館講堂

参加者 23人

※インテリジェント・スクール「マンガ作家の生活と意見」

講 師 畑中 純 (漫画家)

日 時 平成13年 1月27日(土)

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 34人

※フィルムレクチャー

講 師 水戸ひねき (映画監督)

日 時 13年 2月 3日(土)

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 68人

※シンポジウム「川柳・世相・人間～激論! 21世紀の川柳」

パネリスト 小檜山博 (作家)、辻脇系一 (俳人)

吉田泉陽 (川柳作家)、斎藤大雄 (川柳作家)

日 時 平成13年 2月17日(土)

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴 講 者 86人

※講演会「生きてきた川柳・明日の川柳」

講 師 斎藤大雄 (川柳作家)

日 時 平成13年 2月18日(日)

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 84人

(5) 映像鑑賞のつどい（会場は北海道立文学館講堂）

- 作品名 「白痴」（黒澤明監督 1951年）

日 時 平成12年4月22日(土) 午後2時

入場者 127人

- 作品名 「スティング」（ジョージ・ロイ・ヒル監督 1973年 米国）

日 時 平成12年6月17日(土) 午後2時

入場者 58人

- 作品名 「挽歌」（五所平之助監督 1957年）

日 時 平成12年10月21日(土)／11月4日(土) ともに午後2時

入場者 122人／108人

- 作品名 「忠臣蔵」（松田定次監督 1959年）

日 時 平成12年12月2日(土) 午後2時

入場者 109人

- 作品名 「雪国」（豊田四郎監督 1957年）

日 時 平成13年2月12日(月)

入場者 91人

(6) ロビーコンサート

- ※内 容 ギター音楽とトークの夕べ

日 時 平成12年12月23日(土) 午後6時

会 場 北海道立文学館地階ロビー

出 演 赤坂孝吉（ギタリスト）

入場者 98人

- ※内 容 「新世紀に響くハープの調べ」

日 時 平成13年1月9日(火) 午後3時

出 演 池田千鶴子（ハープ）・栗林さとし（朗読）

入場者 95人

(7) ウィークエンド・カレッジ

- ※文学、芸術及び隣接諸分野に体系的にふれながら、さらに高度な専門性を持つ内容を継続的に学習する場として今年度より新たに開講した。

日 時 平成12年11月11日(土)～平成13年3月25日(日)

原則として各月第2、第4土曜、日曜に開講する。

内 容

| 教 科 | 科 目 | 講 師 |
|------|-------------|---------------------------------|
| 文 学 | 近現代日本文学（小説） | 神谷忠孝（北海道大学教授） 押野武志（北海道大学助教授） |
| | 近現代日本文学（詩） | 笠井嗣夫（詩人・評論家） |
| 外国語 | ロシア語原典講読 | 工藤精一郎（ロシア文学者） |
| | イタリア語講読 | 工藤知子（札幌大谷短期大学講師） |
| 文化論 | 映像論 | 中澤千磨夫（武蔵女子短期大学教授） |
| | メディア論 | 野坂政司（北海道大学教授） |
| 特別講義 | 美術論特講 | 浅川 泰（道立近代美術館学芸第二課長） |
| | 漫画論特講 | 畑中 純（漫画家） |
| | 書誌学特講 | 小山内時雄（弘前大学名誉教授） |
| | 口承文芸論特講 | 工藤正広（北海道大学教授） |
| | 「北海道」論 | 山口昌男（札幌大学学長） |
| | 「東北」論 | 村上善男（美術家・詩人） |
| | 編集論 | 石塚純一（札幌大学助教授） |
| | 〃 | 平原一良（北海道文学館事業課長） |

聴講者 397名（延べ人数）

III 北海道文学に関する調査研究事業

寄附行為第4条第3号に掲げる事業は、次のとおり行った。（いずれも国内）

- 和田徹三資料調査
- 更科源蔵資料調査
- 小熊秀雄資料調査
- 藤沢健夫旧蔵資料調査
- 特別企画展、企画展の図録・リーフレット作成

IV 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

寄附行為第4条第4号に掲げる事業は、次のとおり行った。

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主催名義の使用を承認して支援した。

- 星座の会
文学講演会（3回）
（平成12年5月13日、7月22日、9月30日 北海道立文学館講堂）
- 斎藤茂吉記念中川町短歌フェスティバル実行委員会
「斎藤茂吉記念第7回中川町短歌フェスティバル99」
（平成12年9月15日、16日 中川町山村開発センター）
- (財)札幌市芸術文化財団
「平野啓子語りの世界」
（平成12年9月19日 札幌市教育文化会館小ホール）

- 絵本・児童文学研究センター
「第5回文化セミナー 絵本の可能性」
(平成12年11月12日 小樽市民会館)
- 山の手図書館おはなしかご
「大人が楽しむおはなし会」
(平成12年10月25日 北海道立文学館講堂)
- NHK文化センター松井教室
「北海道ゆかりの文学を読む」
(平成12年10月1日 北海道立文学館講堂)
- 日本児童文学者協会北海道支部
「児童文学学校」
(原則として各月の第1、第3木曜日に開校 北海道立文学館講堂)
- 国際ソロプチミスト札幌フレンズ
「朗読劇と音楽とお話の集い」
(平成13年3月3日 ホテル・ライフォート札幌)

V 啓発広報事業

寄附行為第4条第5号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- 施設案内、常設展リーフレット、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナー
ちらし等を制作、発行。
- 広報誌「サンクンガーデン」第10号(平成12年10月)、第11号(平成13年3月)の編集発行。
- ※「北海道文学館報」第52号(平成12年7月)、第53号(平成12年12月)の発行。

VI 刊行物の刊行事業

寄附行為第4条第6号に掲げる事業は次のとおり行った。

- 特別企画展「挿絵と装幀の小宇宙」図録(B5版、32頁)の刊行
- 特別企画展「『北緯五十度』の詩人たち」図録(B6変型版75頁)の刊行
- 企画展「Visual Poetica 2001 in 札幌」図録(B5版、32頁)の刊行
- 『2000資料情報と研究』(B5版、54頁)の刊行

VII 北海道立文学館の管理運営事業

寄附行為第4条第7号による道立文学館の管理運営は、北海道と当財団との間に取り
交わされた委託契約(4月1日締結)に基づき、適切に行った。

VII その他の付帯事業

●博物館学芸員実習生の受け入れ及び実習指導

平成12年9月26日～10月7日にかけて（計10日間）、札幌大学学生（2人）、札幌学院大学学生（1人）、東京学芸大学学生（1人）に対し行った。

※古書バザール

平成12年9月16日（土）、17日（日） 文学館1階ロビーで実施。

- ・ミニ古書市は地階にて通年実施。ともにチャリティーバザール実行委員会主催。

※印の事業は財団の独自企画のものを示す。